幼児期から中学までを見通して子供を育てる「チーム日の出」の取組

浦安市立日の出幼稚園長　中島（なかじま）　麻美子（まみこ）

1　はじめに

浦安市は、家庭や地域と連携し、幼児期から小・中学校へ学びと育ちをつなぐため、就学前から義務教育９年間を見通した教育活動を推進している。「幼保小中連携・一貫教育グランドデザイン」を基に、各中学校区の特色を生かした連携事業を展開している。

当園は今年度で33年目を迎える。市内では新しい地域であるが、幼保小中相互の交流活動が定着しており、浦安市教育委員会より「浦安市幼保小中連携教育教科推進校（道徳）」の指定を受けている（４年次）。

2　日の出中学校区の連携について

⑴園児・児童の交流

①　保育園との交流（年４回）

互いの園に行き、ふれあい遊びやリレーをしたり、幼稚園児が乳児のお昼寝の寝かしつけを体験させてもらったりしている。互いに園児数が少ないので、良い刺激となっている。

②　学校との交流（年５回）

１回目：５年生が幼稚園（保育園）に来て、園の様子を知ってもらい、グループで自己紹介をする。２回目以降：園児が小学校へ行き、校内を案内してもらったり、一緒に遊んだりする。３学期には給食やミニ授業を体験したり、５年生が自作の教材で勉強を教えてくれたりすることで、１年生になる期待や、顔見知りの小学生や先生がいることから安心感をもつようになっていく。

⑵施設・作品等を通した交流

夏はプール、冬は校庭を借りての凧揚げや、幼保小で作品を展示し合う「ミニ作品展」を行っている。また、中学校の花壇を借りてジャガイモやサツマイモを栽培している。

⑶教職員同士の交流と連携

①保育・授業の相互参観

小学校の研究授業や「浦安市幼保小中連携の日」の合同研修会に参加し、教員同士の意見交換をしている。また、小学校の先生が保育を見に来ることで、幼児期の発達や学びを知ってもらう機会となっている。

②管理職や事務局レベルの連携会議

担任同士の連絡以外にも、校長・園長会議や教頭・副園長・主任教諭による事務局会議で、綿密な連絡を取り合っている。

3　おわりに

改まった交流活動だけでなく、教師同士で連絡を取り合い、すぐに実現できることが本来の「連携」であろう。例として、運動会前に小学生に走り方を教えてもらったり、音楽会前に中学校の教頭先生に歌唱指導をしていただいたりしている。こうした小さな交流の積み重ねにより、園児が小学生に憧れをもったり、学校の先生に親しみを感じたりすることにつながっている。また、活動後の評価を“振り返りシート”で連絡し合うことで、次回に生きる連携となっている。今後も互恵性のある連携となるよう努めていきたい。